

広域的なひきこもり支援体制の構築と実施状況について

居場所の広域設置の実例と地域支援作り



認定NPO法人ハートツリー
ひなたの森・あづまプラッツ施設長
南 芳樹

紀南地域の概要

和歌山県は南北に長く、全体の約8割が山林地域で、人口が沿岸部に密集しており、漁業が盛んで酒文化が根付いている地域。

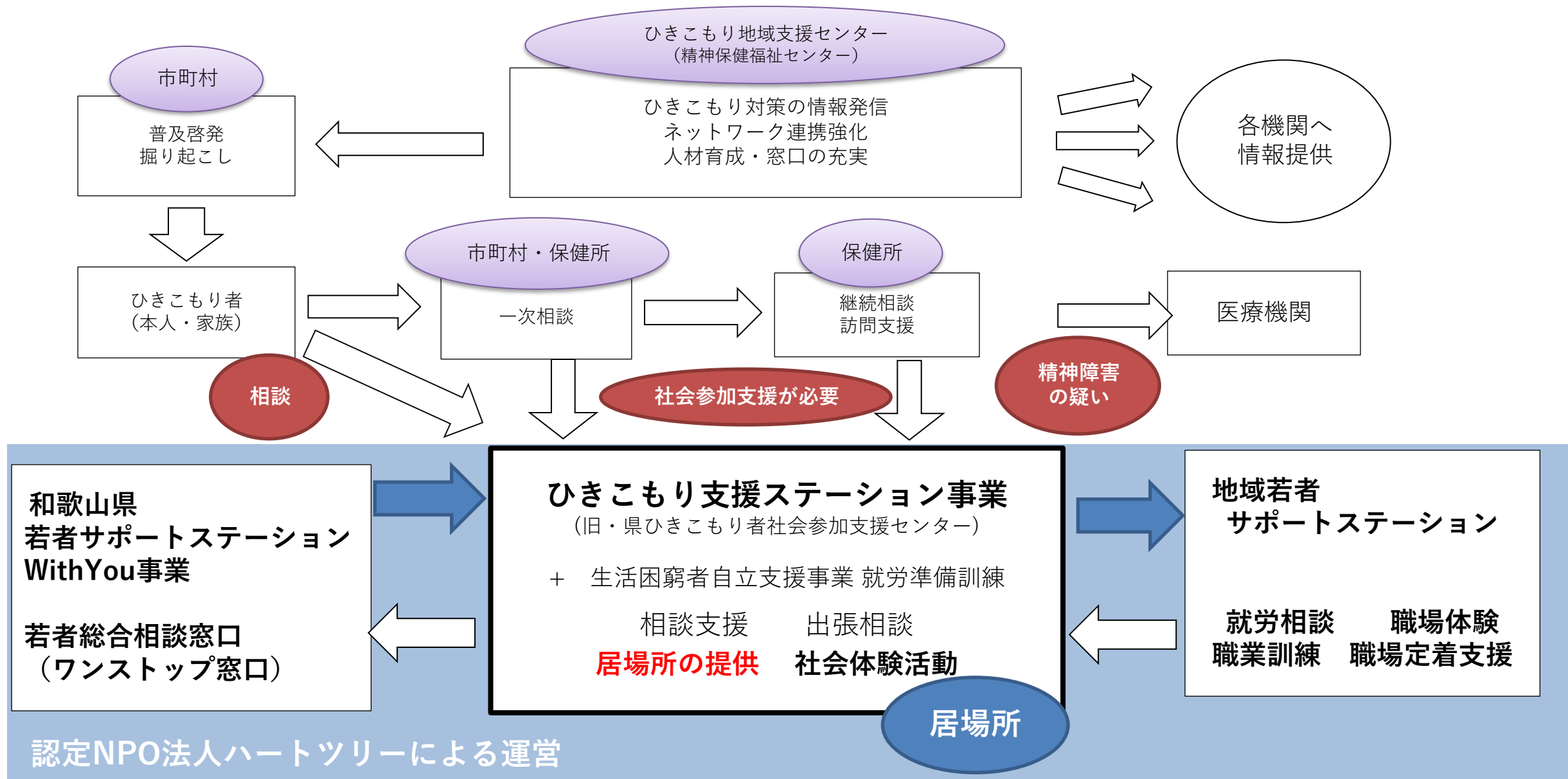
県民性は非常に**おおらか**。

紀南地域は、熊野古道の玄関口として古くは宿場町から発展し、県外からの巡業客を迎えてきた歴史から、おもてなしの文化がある。

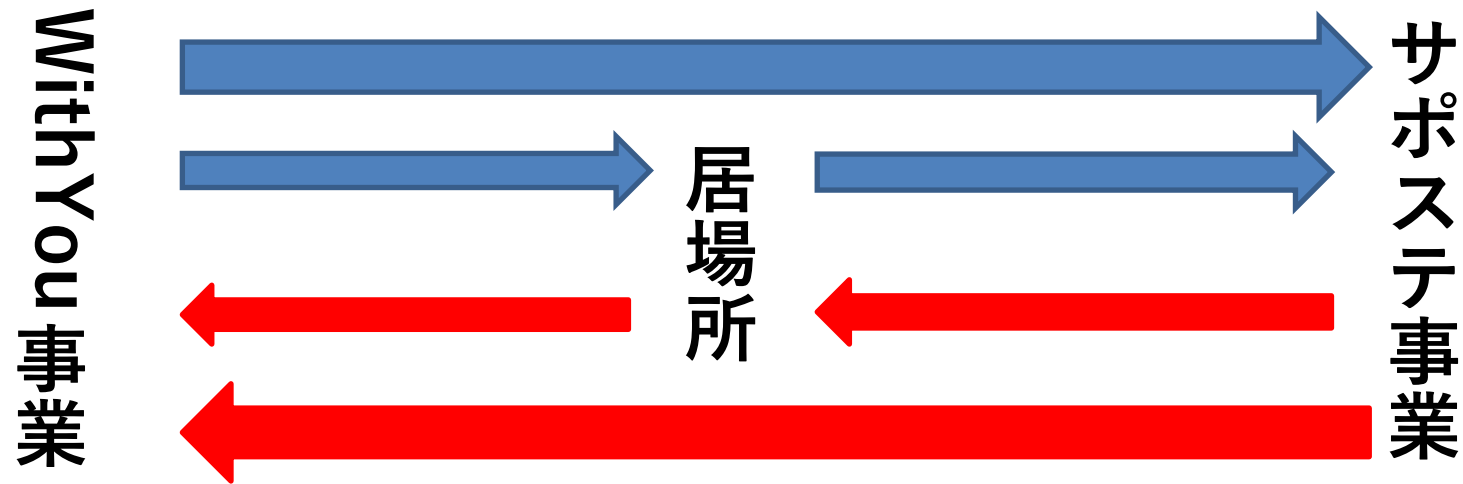
地図の通り、和歌山県の**半分**は紀南地域。田辺保健所から新宮保健所までは車で2時間、電車で3時間程かかる。



紀南地域のひきこもり者支援体制



認定NPO法人ハートツリーの強み



相談としての「入口」から、就労や就職という一つの「出口」までの支援を同じ法人が一貫して支援できるというメリット。

※その中間の支援に「居場所」があることが何よりも重要なポイント。
(行きつ、戻りつが出来る環境)

その周りを協力・関係機関によって取り囲まれているというイメージ。

「ひきこもり支援」は単一の課題にだけでなく、一人ひとりの「生活」を総合的に支援する仕組みが大事なポイント。

ハートツリーの広域的なひきこもり支援の経過と課題

1, ひきこもり者社会参加支援センターからの移行 (西牟婁地域)

→県事業を実施していたのは田辺市。

周辺町村は利用者が発生すると、利用者分の分担金を田辺市に支払うという形だった。ひきこもりサポート事業が始まった当時、1自治体の補助金が一律300万に制限されていた(現在は人口区分に応じて500万~1100万)ため、田辺市だけでは運営できないという事態に。

2, 新規での「居場所」立ち上げ (東牟婁地域)

→単独市町村では実利に見合うだけの体制を作れない。

当時の和歌山県の事業は前年度の利用者実績で補助金が支給される仕組みで1年目は全部市町村の自腹。

新規の居場所立ち上げの問題点と解決（東牟婁地域）

• 人なし

ひきこもり者支援を行うだけのノウハウを持つ法人がない。



(田辺・西牟婁圏域)のハートツリーが運営し、東牟婁の人材を雇用してもらって法人にも根付いてもらおう！

• 場所なし

県の1/3を占める広すぎる範囲。居場所に利用できる建物もない。



使っていない県の建物を無償で貸そう！（現在は賃貸物件に移転）

• 金なし

単独市町村では実利に見合うだけの体制を作れない。

さらに、当時の和歌山県の事業は前年度の利用者実績で補助金が支給される仕組みで1年目は全部市町村の自腹。



管内6市町村が合同で補助金を出し合う形を作ろう！
県でスタートアップ事業を作って立ち上げの支援しよう！

県事業からの移行問題と解決（西牟婁地域）

- 「県事業からの移行」という名目で、臨時の担当者会議を開催。
- 管内全市町が参加する新たな事業形態を模索。
- 最終的に平成31年度は750万円を人口割で分担する形を取ることで合意。（現在は人口割＋利用者割）
- 実務的には、それぞれの市町で個別に委託契約を結ぶ

無事、ひきこもりサポート事業への移行ができた

例)令和4年度 居場所 予算案

管内各市町負担額 (人口割90% 利用者割10%) **計833万円**

	人口(人) <small>(R3.1.1住民基本台帳)</small>	人口割 指数(%)	人口割額 (千円)	利用者数(人) (令和2年度延べ)	利用者割 指数	利用者割額 (千円)	計(千円)	負担額【1/2】 (千円)	国補助【1/2】 (千円)
A市	71,947	57.76%	4,332	828	100.00%	830	5,162	2,581	2,581
B町	12,328	9.90%	742	0	0.00%	0	742	371	371
C町	20,893	16.77%	1,258	0	0.00%	0	1,258	629	629
D町	15,575	12.50%	938	0	0.00%	0	938	469	469
E町	3,822	3.07%	230	0	0.00%	0	230	115	115
管内計	124,565	100%	7,500	828	100%	830	8,330	4,165	4,165

ひきこもり支援ステーション事業の役割

①相談支援事業

→ご本人・ご家族の継続相談

②「居場所」の提供

→平日13：00～17：00まで開所。

居場所への送迎支援も実施（送迎支援が非常に重要）

③訪問支援

→アウトリーチ支援もひきこもり支援において中核的支援。

④出張相談

→（東牟婁）年間6回（各市町村にて）実施。

どこの出張相談にも相談が可能。

複数の市町村による居場所の設置について



和歌山県PRキャラクター「きいちゃん」

ひきこもり支援ステーション事業担当者会議

年2～3回開催

(5月) 昨年度実績報告 / 本年度事業計画案

(10月) 上半期実績報告 / 次年度予算の検討

出席者: 受託法人、各市町担当者、保健所担当者

その他協議内容

- ・ 担当者の異動に伴う概要説明
- ・ 新たな支援の方策の提案
- ・ 予算の増額
- ・ 自治体間の予算割の計上方法 等

複数市町村による共同実施のメリット

- **1つの市町村で実施するよりも少ない負担**

- **居場所における利用者の確保**

複数人が入り交じることによってグループダイナミクスによる影響を生み出すことができる。同時に多様性も。

- **ノウハウを持つ事業者へ委託を集中させることができる**

ひきこもり支援は障害福祉サービス等とは違い、ほぼ100%補助金や公費に頼らざるを得ない。小規模自治体ほど単体での運営が難しくなる(人口2万以下だと上限500万)。

ひきこもり支援ネットワーク会議

県内のひきこもり支援ステーション事業（サポート事業）を委託運営している団体や他の民間団体など不登校・ひきこもり支援に関わっている団体（行政機関も含んで約20団体）と3か月に一度の頻度で会議・交流を実施。以前には、お花見や合宿などの利用者の交流なども。今年は今秋くらいに、「施設対抗運動会」企画検討中！！



那智の滝（那智大滝）

ご清聴ありがとうございました